

2026年2月10日



Osaka Metro Group

2025年度（2026年3月期）第3四半期決算

1. 2025年度第3四半期（10-12月）連結損益計算書（総括）

営業収益は、主に、鉄道・バスの乗車人員の増加などにより、45億円の增收。

営業利益は、万博に関する特別手当支給等による人件費の増加、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加などがあったものの、営業収益の増加により、1億円の増益。

経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、金利上昇に伴う支払利息の増加等による営業外費用の増加により、減益。

(単位：億円)

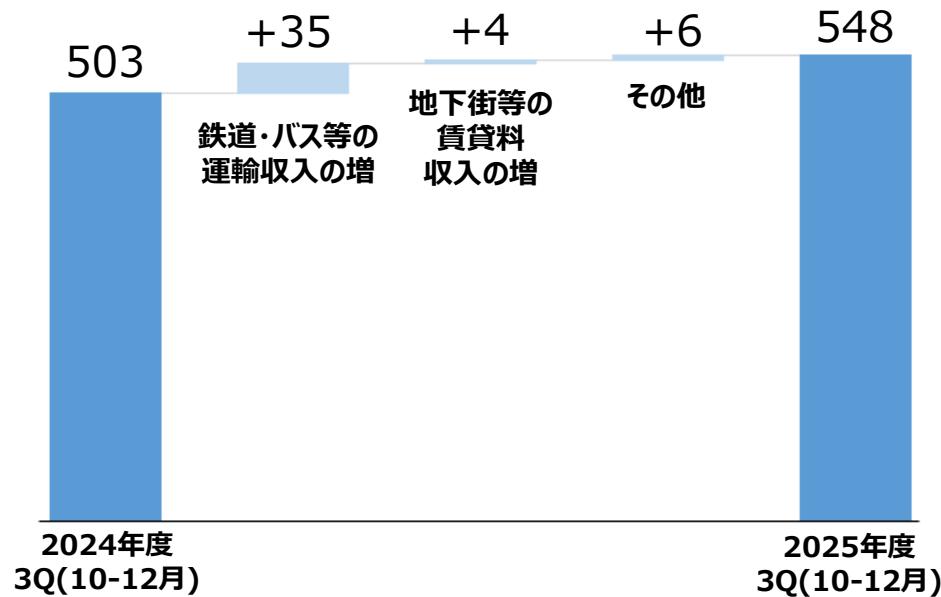
	2025年度 3Q (10-12月)	対前年同期 増減	【参考】	
			2025年度 3Q累計	対前年同期 増減
営業収益	548	+45 (+8.9%)	1,825	+303 (+19.9%)
営業費用	432	+44 (+11.2%)	1,363	+194 (+16.6%)
営業利益	116	+1 (+0.9%)	462	+109 (+30.8%)
営業外損益	▲3	▲4	▲11	▲10
経常利益	113	▲3 (▲2.5%)	451	+99 (+28.1%)
特別利益	34	+26	41	+28
特別損失	30	+22	36	+25
法人税等	37	+2 (+4.9%)	140	+31 (+28.6%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	78	▲2 (▲2.2%)	307	+65 (+26.9%)

2. 2025年度第3四半期（10-12月）営業収益・営業利益の増減要因

営業収益は、鉄道・バス等の運輸収入、地下街等の賃貸料収入の増加などにより増収。
営業利益は、人件費や減価償却費の増加等があったものの、営業収益の増加により増益。

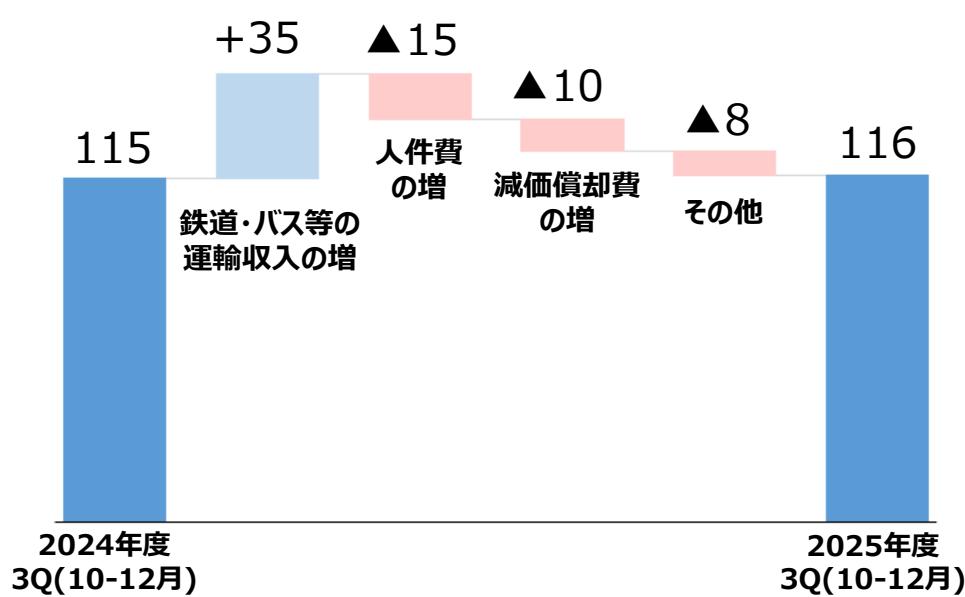
営業収益

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



3. 2025年度第3四半期（10-12月）セグメント別の状況（総括）

交通事業は、運輸収入の増加により増収となったものの、人件費や減価償却費の増加等により、増収減益。マーケティング・生活支援サービス事業、都市開発事業は賃貸料収入の増加等、広告事業は広告収入の増加や新規事業の推進等により、増収増益を達成。

（単位：億円）

	2025年度 3Q（10-12月）		対前年同期 増減		2025年度 3Q累計		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
	合計	548	116	+45 (+8.9%)	+1 (+0.9%)	1,825	462	+303 (+19.9%)
交通事業	504	107	+39 (+8.3%)	▲3 (▲2.4%)	1,625	421	+263 (+19.3%)	+100 (+31.4%)
鉄道事業	474	106	+37 (+8.5%)	▲1 (▲0.6%)	1,524	402	+248 (+19.4%)	+84 (+26.6%)
バス事業	37	1	▲0 (▲0.9%)	▲1 (▲56.1%)	145	18	+36 (+33.6%)	+16 (+661.7%)
セグメント内取引消去	▲7	▲1	+2 (-)	▲1 (-)	▲44	-	▲21 (-)	▲0 (▲100.0%)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	34	4	+3 (+8.3%)	+3 (+246.0%)	101	9	+9 (+9.7%)	+2 (+28.0%)
都市開発事業	11	3	+2 (+26.1%)	+1 (+28.1%)	103	24	+26 (+34.3%)	+4 (+17.3%)
広告事業	14	2	+3 (+26.7%)	+0 (+15.6%)	42	7	+13 (+43.5%)	+3 (+52.8%)
その他	▲15	0	▲2 (-)	+0 (-)	▲46	0	▲9 (-)	+0 (+185.1%)

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 交通事業の状況

営業収益は、万博閉幕までの約2週間における効果及び鉄道・バスの乗車人員の堅調な増加や沿線観光資源の発掘・情報発信、各種キャンペーンなどの增收施策により、39億円の增收。営業利益は、万博に関する特別手当の支給や事業拡大に向けた人員増に伴う人件費の増加、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加により、3億円の減益。

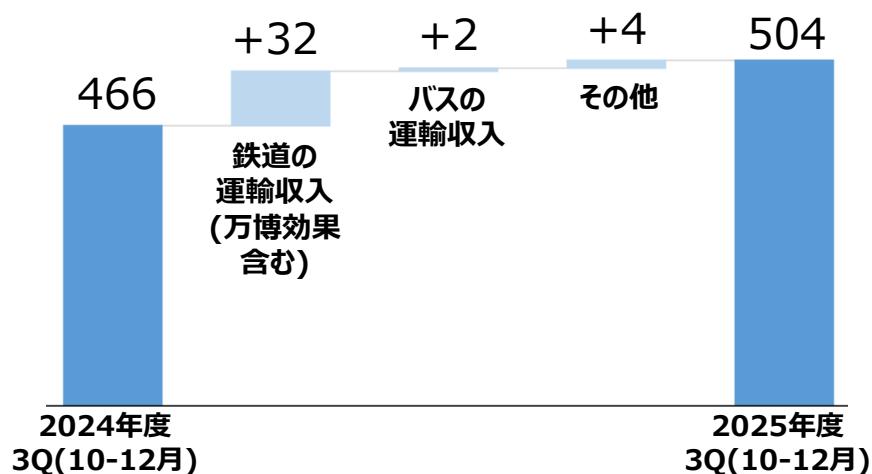
(単位：億円)

【参考】

	2025年度3Q (10-12月)	対前年同期増減	2025年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	504	+39 (+8.3%)	1,625	+263 (+19.3%)
営業利益	107	▲3 (▲2.4%)	421	+100 (+31.4%)

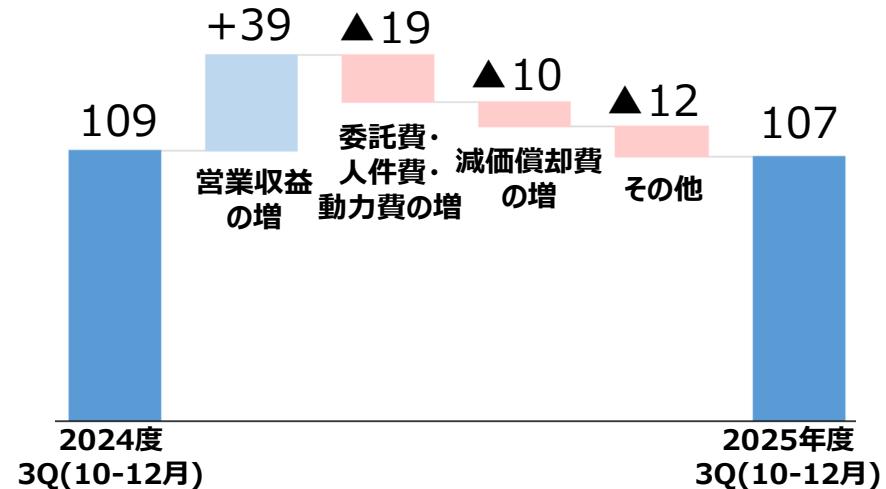
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は13百万人（+5.4%）増加。

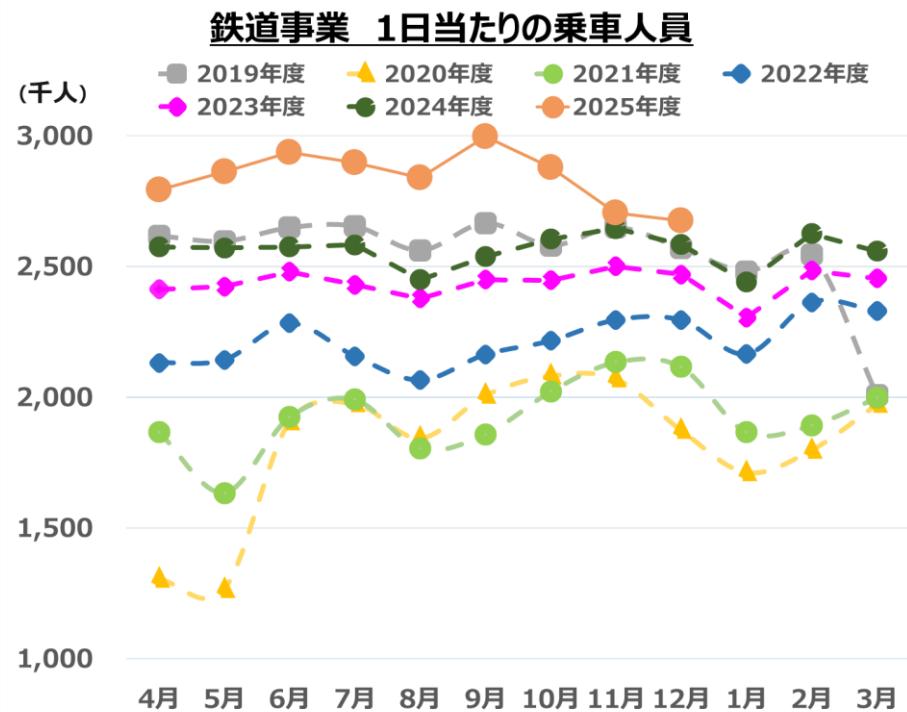
運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、32億円（+7.9%）増加。

9か月累計でも同様の傾向であり、乗車人員は75百万人増、運輸収入は206億円増。

（単位：千人、億円）

		2025年度 3Q（10-12月）	対前年同期 増減	2025年度 3Q累計	対前年同期 増減
乗車 人員	合計	253,287	+13,064 (+5.4%)	781,657	+75,115 (+10.6%)
	定期	121,709	+2,823 (+2.4%)	368,131	+13,392 (+3.8%)
	定期券	88,965	+4,442 (+5.3%)	269,302	+16,331 (+6.5%)
	マイスタイル	32,744	▲1,620 (▲4.7%)	98,829	▲2,939 (▲2.9%)
	定期外	131,578	+10,242 (+8.4%)	413,526	+61,724 (+17.5%)
	合計	441	+32 (+7.9%)	1,407	+206 (+17.2%)
運輸 収入	定期	165	+3 (+2.1%)	505	+20 (+4.1%)
	定期券	109	+6 (+5.5%)	335	+23 (+7.5%)
	マイスタイル	56	▲2 (▲3.9%)	170	▲4 (▲2.1%)
	定期外	276	+29 (+11.7%)	901	+187 (+26.1%)

【参考】



4-(1). 交通事業の主な取組み

可動式ホーム柵の設置やエレベーターの増設等、安全・安心に向けた取組みに加え、お客さまサービスの向上に向けた取組み・増収に向けた取組みを着実に推進。

安全・安心の取組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく、谷町線太子橋今市駅ほか合計6駅で供用開始。

(2025年度末までに全134駅設置完了に向け整備中。)



<エレベーターの増設>

バリアフリー経路の複線化として、なかもず駅、中崎町駅にエレベーターを増設。2025年度内の供用開始に向け、東三国駅ほか合計4駅を整備中。



<セキュリティ対策>

谷町線12列車、堺筋線4列車など合計23列車に車内防犯カメラを設置。(列車内の安全性向上と犯罪抑止を目的として、2027年度末までにすべての列車に車内防犯カメラを設置。)

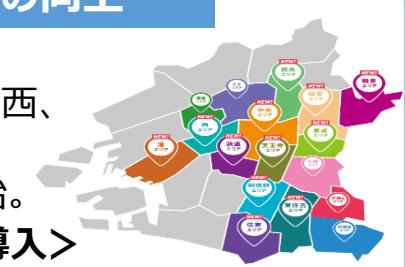
<総合訓練の実施>

南海トラフ地震発生による津波及び列車内におけるモバイルバッテリーからの発火を想定し、消防と連携した合同訓練を実施。

お客さまサービスの向上

<オンデマンドバスエリア拡大>

2025年10月28日から新たに中央、西、天王寺、城東、住吉など大阪市内12エリアで運行(社会実験)を開始。



<Osaka Point LINE会員証の導入>

2025年12月1日よりOsaka Point LINE公式アカウントを開設し、LINE上でOsaka Pointを貯めることができるLINEの会員証を新たに導入。

増収に向けた取組み

<沿線情報の発信、タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」の発行など、国内や海外インバウンドへ沿線情報の発信を強化。人気映画などとタイアップし、謎解きゲームを実施。



<御堂筋ライナーの運行>

大阪駅前から心斎橋まで約20分、座って快適に移動いただけるバス路線『御堂筋ライナー』を2025年12月1日に運行開始。

4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

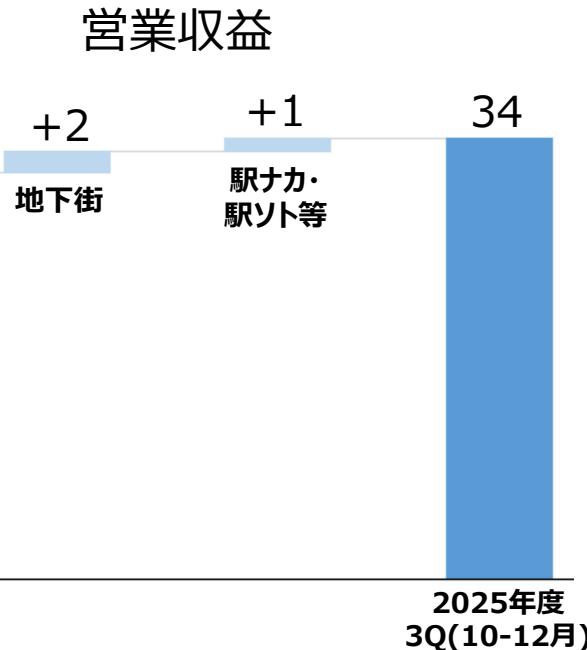
地下街の賃貸料収入の増加、駅ナカでのコインロッカーの増設、直営店舗の開業などにより、増収増益。

駅ナカ・駅ソトに新規店舗を開業するなど、駅周辺の利便性と快適性の向上を継続して推進。

(単位：億円)

	2025年度3Q (10-12月)	対前年同期増減	【参考】	2025年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	34	+3 (+8.3%)		101	+9 (+9.7%)
営業利益	4	+3 (+246.0%)		9	+2 (+28.0%)

(単位：億円)



【参考】

駅ナカ・駅ソト

＜直営店舗新規オープン＞

直営ポップアップ型販売店舗「Metro Opus」の12号店「Metro Opus堺筋本町店」、13号店「Metro Opus天王寺東店」を、2025年10月と12月にそれぞれオープン。



＜Metro Opus天王寺東店＞

＜カラダストレッチ大阪初出店＞

人の移動を促進し、大阪の健康寿命にも貢献することを目的として、ボディケアブランド「カラダストレッチ」のフランチャイズ加盟店として『KA・RA・DA stretch (カラダストレッチ) by Osaka Metro なんばパークス店』を2025年12月にオープン。



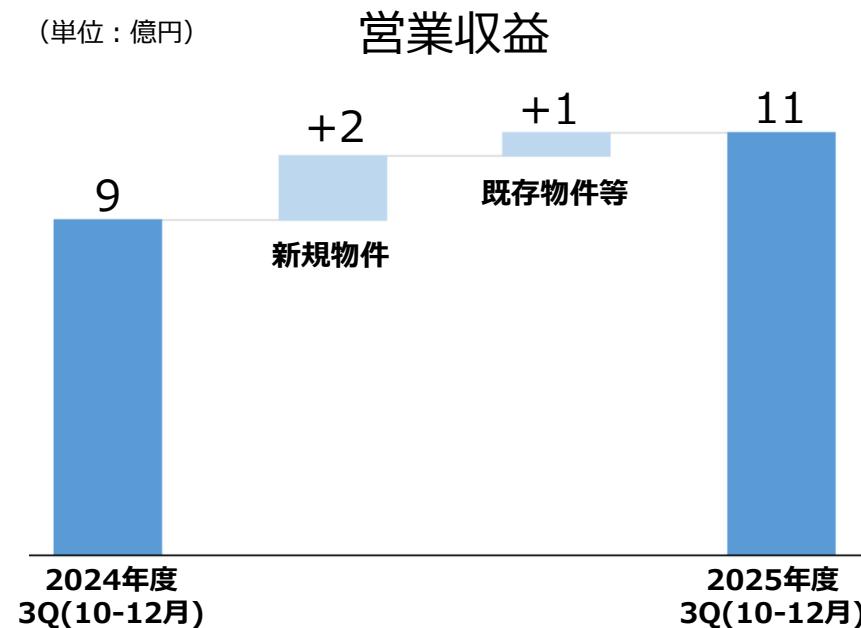
4-(3). 都市開発事業の状況と主な取組み

今年度竣工した賃貸マンションや前年度下期に取得した賃貸オフィスビル等の新規物件、ホテルや商業施設等の既存物件による賃貸料収入の増加などにより、増収増益。
住宅ニーズの高い駅周辺において、交通の価値向上につながる開発を推進。

(単位：億円)

	2025年度3Q (10-12月)	対前年同期増減	【参考】	2025年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	11	+2 (+26.1%)		103	+26 (+34.3%)
営業利益	3	+1 (+28.1%)		24	+4 (+17.3%)

(単位：億円)



新築賃貸マンション

<Metrosa谷町六丁目South>

新築賃貸マンションブランド
「Metrosa(メトローサ)」シリーズ。
谷町線・長堀鶴見緑地線
谷町六丁目駅徒歩1分、
地上14階・総戸数92戸+店舗1区画。
都心生活をアクティブに堪能できる
華やかなロケーションを提供。
2025年10月に竣工、
2025年11月より入居開始。



4-(4). 広告事業の状況と主な取組み

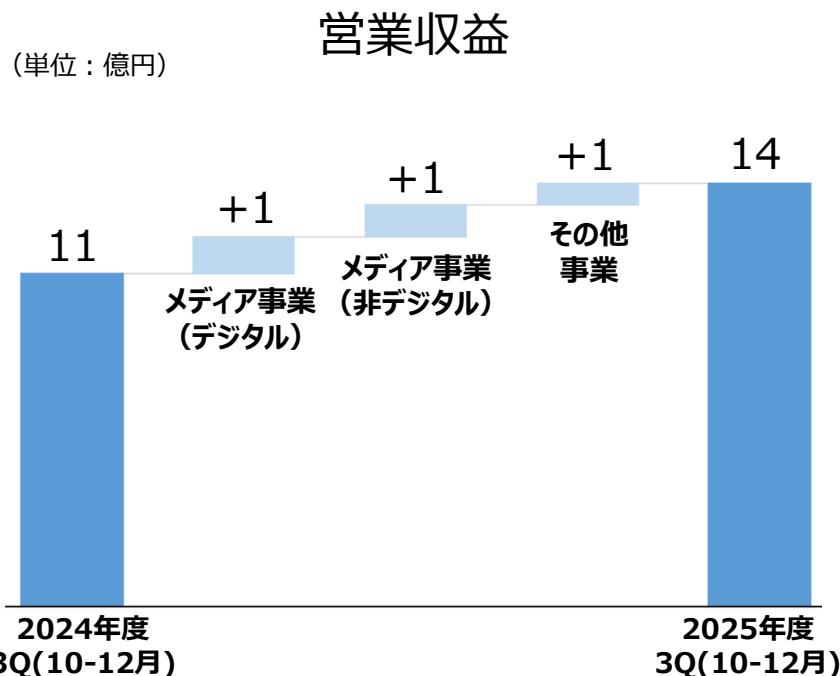
メディア事業では万博閉幕後も堅調な出稿状況が継続し、代理店事業ではハウスエージェンシーの受注が増加したことなどにより増収増益。「Osaka JOINER」は、旅行者と地域をリアルにつなぐ体験型プロジェクトへの参画や法人・自治体からのプロポーザル案件を受注。

(単位：億円)

	2025年度3Q (10-12月)	対前年同期増減	2025年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	14	+3 (+26.7%)	42	+13 (+43.5%)
営業利益	2	+0 (+15.6%)	7	+3 (+52.8%)

【参考】

(単位：億円)



代理店事業

ハウスエージェンシーとして、グループ内のプロモーションを担当。Web動画、ポスター・デザイン等の制作、SNS広告のプランニング・運用、イベントの企画・運営等を多数実施。



＜制作したWeb動画の一例＞

新規事業

ローカルガイド事業「Osaka JOINER」では、東急リゾーツ＆ステイ等が展開する旅行者と地域をリアルにつなぐ体験型プロジェクトに参画し、「東急ステイ」ホテル2か所にサービス拠点を開設。



インバウンドマーケティング、コンテンツ造成、観光人材育成等の法人・自治体向けコンサルティング業務を全国6府県より受注。

5. 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

- 連結貸借対照表** : 投資は、駅グランドリニューアル等のサービス投資、可動式ホーム柵の設置等の安全投資を中心に、246億円実施。
- 連結キャッシュフロー計算書(3Q累計)** : 営業CFは、税引前純利益の増加等により、164億円増加。投資CFは、前年同期に比べて車両新造の設備投資が減少したこと等から174億円の支出減となり、結果として、フリーCFは、338億円の増加。

					(単位：億円)				(単位：億円)	
		2025年度 3Q末	2024年度末	増減	主な増減要因			2025年度 3Q累計	2024年度 3Q累計	増減
資産		10,275	10,495	▲221						
流動資産		411	562	▲151	現金及び預金 ▲98					
固定資産		9,864	9,934	▲70	投資 +246 減価償却費 ▲404					
負債		3,962	4,501	▲538						
流動負債		1,593	2,246	▲653	コマーシャルペーパー ▲310 未払金 ▲385					
固定負債		2,370	2,255	+115	社債+100					
純資産		6,313	5,995	+318						
現金及び現金同等物		142	240	▲98						
有利子負債		3,261	3,471	▲211	社債 +100 コマーシャルペーパー ▲310					
ネット有利子負債		3,119	3,232	▲113						
自己資本		6,233	5,924	+309						



**Osaka Metro
Group**